

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・子ども達の主体性について、教職員のサポートがしっかりと行われている。	・「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒
・ 家庭と連携して個別に指導していることが伝わってきた。	・ 知識、技能の定着に課題がある。		・ 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
・ 生徒自身が考え、決める・選ぶことを大切にしていることがよく分かった。	・ 学ぶことが面白いと実感している児童生徒は多いが、自ら課題に取り組むことができてはいない。	中学校区として統一した取組等	○ 学習指導要領に立ち返り、知識、技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。
			○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	・課題発見する力（課題をみつける） ・対話する力（コミュニケーション） ・認める態度（人としての思いやり）
生徒一人一人の学びを最大限に引き出すために、 ・ 個々の生徒の状況を丁寧にみる ・ 臨機応変に対応する	めざす子ども像	・ 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見出し、解決に向けて方法をさぐる。 ・ 課題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者の考えを評価したり、深めたりして、互いの考えを生かし合う。 ・ 自己の考えや行動に責任をもつとともに、他者の思いや立場を尊重することで、互いに高め合う。
学校教育目標	研究	まなぶ 学力の向上
自律 ～自ら考え、決めて、選ぶ～	テーマ	
現 状	主題・内容等	○「知識・技能」の定着を図り、自分自身の「ことば」で説明できる力をつける。 ・ 生徒の学びの姿から、教師が教えることと、生徒が考えることを選ぶ。 ・ あらゆる方法で、生徒一人一人の学びの姿をとらえる。 ・ 生徒の「学びたい」を引き出す。
＜生徒＞ ・ 87.9%の生徒が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答しており、昨年と数値が変わらず、定着している。 ・ 「学校生活の中で、自分の考えが認められている。」と回答する生徒の割合は91.0%となり、自らを表現できる環境をつくることができています。 ・ 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は24.4%となっている。 ・ 学校図書館を利用したことのない生徒の割合は27.0%となった。	めざす授業の姿	○生徒自ら学び、確かな学力をつける ・ 生徒が自ら課題（問い）を考え、自分の「ことば」で表現する。 ・ 生徒が学び方を決めて、解決に向けた方法をじっくり選ぶ。 ・ 自分や周りとの対話をくり返しながら、学びを深め、高め合っている。
＜授業＞ ・ 授業で考えるのは楽しいと肯定的に回答した生徒は71.0%。 ・ 課題について自分の「ことば」で説明できていると回答した生徒は79.6%。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	1 生徒自ら、知 識を習得する ための学び方 を探究し、課 題に気付く力 を育成する。	★	見 直 し	学校と家庭での 学習を繋げる工 夫を行い、生徒の 知識の定着を図 る。また、子ども が自身の「言葉」 と「数」で表現す る力を育成する。	・生徒自ら選んで 家庭学習に取り 組めるよう工夫 する。	・自分で考え、決め て、選んで授業での 課題や家庭学習に 取り組むことがで きていると回答す る生徒の割合を9 0%以上にする。 ※2024年数値な し									
			継 続		・授業や特別活動 の中で、生徒自 身が考え取組 むことができる よう教職員 が導いていく。	・自分が「考える、 決める、選ぶ」こと を大切にしていると 回答する生徒の 割合を90%以上 にする。 (現状88%)									
4	2 生徒一人一人 の個性を大切 にした教育活 動を実践す る。		継 続	教職員と生徒の 対話、生徒と生徒 の対話、それぞ れを大切にする。	・生徒が安心して 個性や考えを 表現できるよ うな環境を提 供する。	・学校生活の中で、 自分の考えが認め られていると回答 する生徒の割合を 増加させる。 (現状91%)									

			継続		・週1回の「学びプロジェクト委員会」で個々の状況を協議し必要な支援を行う。	・新規長欠者の出現率を減少させる。 (現状2.0%)									
1	3 生徒自ら、充実した学校生活になる取り組みを考え、実行する力を育成する		見直し	健康促進、体力づくり、本を読む習慣の定着など、自分の心と身体の育成について生徒会執行部を中心に取組を考え実行する。	・生徒と教師が共に委員会などの取組を計画し、実行する。	・各種委員会が計画する活動や取組に協力したり、参加したりしている生徒の割合を90%以上にする。 ※2024年数値なし									
4	4 対話を通して、元気・笑顔で勤務する教職員を育成する。		継続	主体的に新たなことにチャレンジしている教職員を増やす。	・それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 ・教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。	・「仕事にやりがいを感じる」と回答する職員の割合を増加させる。 (現状93.8%)									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。